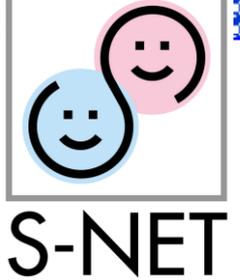


# KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞) 広報50号



編集責任者：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本直也  
事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階  
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話090-4937-4904 定価30円  
ホームページ：http://www.npo-snet.com eメール：info@npo-snet.com

2001年5月にNPO法人格を取り、その年の11月に  
広報の「創刊号」を発行しました。今回50号の発行です。

## 特定非営利活動法人



## ノーマライゼーション社会の実現を!

### 初めまして

1997年5月に「湘南ふくしネットワーク・オンブズマン」が活動を始めて以来、5年がたちました。地域ネットワーク型福祉オンブズマンという、新しい形の施設オンブズマンの活動でした。当然、先行の

してその声を社会化していくなかで、市民や地域が変わっていく、そのような影響を与えつけていくことが私たちの使命だと考えています。

2001年5月、より地域に根差し、市民の連

創刊号  
2001年12月10日  
湘南ふくしネットワーク  
オンブズマン  
発行責任者 高山直樹  
〒253-0043  
茅ヶ崎市元町7-17  
電話・FAX  
0467-85-6660  
24時間直通電話  
090-4937-4904  
URL:www.npo-snet.com



1997年5月に「湘南ふくしネットワーク・オンブズマン」が活動を始めて以来、5年が経ちました。地域ネットワーク型福祉オンブズマンという新しい形の施設オンブズマンの活動でした。

当然、先行の活動があるわけではなく、マニュアルもありませんでした。加盟施設の施設長を中心とする運営委員会とオンブズマン委員会が立場を異にしますが、将来には、画一的な施設という枠組みではなく、地域社会において、その人らしい生活を送る事ができるノーマライゼーション社会の構築を目指している方向性が一致し、この活動が展開されていったのでした。

その目標に近づくためには、まず利用者の方々の声に耳を傾けることが非常に重要でありました。一人の利用者の側に立ち、その声を受け止め、実現を図っていく、それは利用者との関係だけではなく、施設、職員、家族そして市民の協働がなければなりません。一人の利用者の声を中心に、関係者が知恵を出し合っていく、そしてその声を社会化していく中で、市民や地域が変わっていく、そのような影響を与え続けていくことが私たちの使命だと考えています。

The image shows three overlapping copies of the magazine cover. The top cover is the '創刊号' (Issue 1) from December 10, 2001. The middle cover is '広報50号' (Issue 50) from January 12, 2013, featuring a table of contents for a 2012 year-end meeting. The bottom cover is '広報40号' (Issue 40) from May 20, 2010, featuring a 2010 year-end meeting report. Each cover includes the title, issue number, and contact information for the publisher, NPO S-NET.

引き続きご高覧のほど、よろしく  
お願いいたします。



## ❀ みんなでイキイキ S ネット ❀

# 「権利をまもる」人材育成研修 報告

主催：特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマン

後援：茅ヶ崎市、(社福)茅ヶ崎市社会福祉協議会、(社福)茅ヶ崎市社会福祉事業団

2017年10月23日(土)・24日(日)の2日間、

「～自分のまちで活動するっていいよね♪～」を開催いたしました。

まずは、和泉短期大学教授鈴木敏彦さんに「入門『権利をまもる』とは?」と題して、権利擁護の基本をお話いただきました。

続いて、理事長藤本直也さんから「Sネットってどういう組織?」ということで、権利擁護団体としての成り立ちや目指すものなど説明しました。



茅ヶ崎市からの委託事業の「成年後見支援センター」は、茅ヶ崎市民から成年後見に関する相談を受け、制度の説明や申立て手続きのお手伝いを行っていること、最近では相談を経て親族後見人になった人からの相談が多くなり、そうした相談に丁寧に乗っているなど三谷智百合センター長よりお話ししました。

次に、法人後見活動について担当者の相川裕弁護士から「弁護士が語る成年後



見制度の『ガッテン!』』ということで、Sネットが行っている「被後見人等の意思を十分に聴き取って身上監護に重点を置いた後見活動」について説明し、現行の成年後見制度であっても、障害者権利条約が締結されたのだから、後見人は条約に合わせて、本人の権利・意思を尊重した後見活動をしなければいけない、と、ガッテン! 納得しました。



初代理事長で東洋大学教授の高山直樹さんから、対人援助は葛藤することが大事。他者をエンパワメントすると自分がエンパワされ、反対語はパワーレスネスで力を奪うこと。差別や虐待の心にブレーキを掛けさせる人達が必要。障害のある利用者中心の地域づくりが社会変革につながるなど力強いお話でした。



2日目は、2つのシンポジウムを行いました。



武山育子さん、薩摩章子さん、上杉桂子さんによる  
「私たちの『権利をまもる』とは?」  
コーディネーター:高山直樹さん  
(活動を始めた動機や、其々の活動についてのお話)



富田祐さん、増藤純さん、斎藤加代さんによる  
「当事者の想いを知ってください」  
コーディネーター:小野田智司さん  
(ご自分の事、日頃の想いを、大いに語っていただきました)





オンブズマンの江崎康子さんから「利用者の笑顔がうれしい♪オンブズマン活動」ということで、毎月1回2人のオンブズマンで施設を訪問し、利用者から直接「声を聴く」活動の中で、声を代弁したことで、「願いが叶った！」と利用者の笑顔が一番のご褒美。福祉は人を幸せにする活動で、人を幸せにすることで自分も幸せになる。こうした私たちの活動に「どうぞご参加ください！」と呼びかけました。

まとめとして、参加者全員が6つのグループに分かれて、テーブルディスカッションを行いました。熱心な話し声や、笑い声が聞こえました。



最後に、2日間通してすべての課程を受講された方18名に理事長より今後のご活躍に期待を込めて、修了証書をお渡ししました。

(江崎)



## 『フィエスタ翔(社福 翔の会 主催)』に参加しました

台風22号接近の予報が出て、開催が危ぶまれた「フィエスタ翔」ですが、開催当日10月28日(土)は、時折雨粒がパラパラと落ちてきましたが、どうやら終了までお天気は持ちました。

去年は、成年後見支援センターだけで出張相談所を設けましたが、オンブズマンも訪問できない施設もあることから、利用者の皆さんにお会いしたいと参加することにいたしました。



そこで、広報の題字と同じような横看板と、Sネットの活動紹介パネルを用意、テントの半分を借り、相談所を設けました。

ステージを前にコの字型にたくさんのテントが張られ、それぞれに企画準備された美味しい屋台や利用者の製作品販売、掘り出し物バザーなど行われていました。ステージでは和太鼓、アフリカ音楽、津軽三味線、ダンスなどがあり、皆さんも歌ったり踊ったり一緒に楽しんでおられました。

会場では、で交流してマン活動と事ができました。



利用者、家族、ボランティア、地域の方々があちこちいる姿が見受けられ、オンブズマンも日頃のオンブズは違う利用者さんの姿を見たり、親御さんと話をする

会場に設けた相談場所には、成年後見や親亡き後の心配事の相談が数件入り、その場でご相談にのりながら、月・水・金に開所している成年後見支援センターのご案内もしました。

着ぐるみのピンクのうさぎさんも、訪ねて来てくれました。



# オンブズマン活動から

## ブルーベリー（日中生活介護施設）へのオンブズマン訪問

(佐川美智子・高崎義裕)

萩園の閑静な住宅街に、広場を挟んで向かい合う翔の会の2つのグループホームと、ブルーベリーがコの字に並んで建っています。

2階は制服制帽を付け高品質多種類のクッキー製造、1階は牛乳パックの和紙づくり、アクリル束子づくり、アルミ剥がしなどの仕事をする所です。



月に1回10時に、2人で訪問すると多くの方が私たちの訪問を待っており、1階の奥の台所の一角を囲って面談が始まります。ゆっくり出勤する方々、歯磨きコー

ナーの整理整頓の当番の方、支援するスタッフ達の言葉掛けなど、いろいろな事が見えたり聞こえたりします。

昼食準備に入る前に面談の場所を隣のグループホームのリビングに移動し、静かな所で話したい方々が来られます。

お喋りがリハビリになる方からは、仕事の内容、楽しいイベント、お昼休みの仲間同士のゲー

ムの様子、帰る前の掃除など一日の生活の様子が聴けます。

グループホームから通っている発語が困難な方から、本人の訴えを丁寧に聞き取ると、その内容をホームのスタッフ宛ての手紙に書いて欲しいと要望があり書くこともあります。本人の言葉が聞き取りにくい場合には、スタッフの支援を受けることもあります。

スタッフの言葉掛けや支援についての要望は、面談終了後の振り返りで施設長に伝えると、スタッフ全員の検討会で話合われ改善を図り、次回の訪問時に報告され、私たちは利用者による結果を確かめることが出来ます。

利用者同士のトラブルの訴えは、障がいの特性や季節的な体調不良が原因で起きるので、双方への支援に一層の配慮が行われて次回に報告されます。

難しいのは家族間の問題です。例えばご自分は、高齢の親の負担軽減のためにも、親離れをしてヘルパーと好きな場所へ行きたいが、介護を生きがいとする親に遠慮して言い出せない方がいます。家族の問題については施設側も私たちも介入が困難なので懸念しています。



## 賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

◇賛助会員会費 ・個人 年額 一〇 1,000円 (一〇以上)

・法人 年額 一〇 5,000円 (一〇以上)

◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号：00210-9-75496

口座名義人：NPO法人 Sネットオンブズマン

